

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東屋)

| | | | |
|---------|---------------|-------|--------------|
| 事業所番号 | O670101971 | | |
| 法人名 | 医療法人 敬愛会 | | |
| 事業所名 | グループホーム馬見ヶ崎 | | |
| 所在地 | 山形市桜町1丁目17-23 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 3年 1月 28 日 | 開設年月日 | 平成 17年 6月 1日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

受け身ではなく、生活のあらゆる選択肢を入居者様自身が決め、いつまでも自分の意志で生活していけるように支援しています

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|--------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 3年 2月 19日 | 評価結果決定日 | 令和 3年 3月 10日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナの影響により、外出や地域との交流など様々な活動が制限されている中でも利用者は百歳を超えた方をはじめ、全員が身体低下にならないように健康体操として、棒体操や足踏み昇降は一人100回を目標に毎日の日課として取り組み、カレンダーに回数を記入し自身の励みとなっています。食事支度や後片付け・掃除・洗濯などそれぞれ家事での役割を持ってこまめに動き、大きな不安の表情も見られず元気に過ごしています。理念にもある「今ある生きる力」をいかに発揮して「自分のことは自分で」してもらい心身の機能・能力を低下しないよう支援しています。利用者の思いと笑顔を大切に自立支援に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 55 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 62 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 56 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 63 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 57 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 58 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 61 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己外部 項目 | | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に理念を掲げ常に目に付くようにしており、新人研修の時には理念についての理論や意義を伝えている。また理念にそった支援ができていないか、毎月のMTで振り返りを行い、実践につなげている。 | 新人研修では理念を区切って具体例を上げて説明を行い、職員の中で形づくられている。個別での関わりを心掛け支援で迷った時は理念に立ち戻り、毎月のミーティングで振り返って実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会へ加入し、回覧板を届けている。運営推進会議も近隣の町内5か所の方が順番に参加してくれ、入居者の方と顔を合わせ、幅広い地域とのつながりがもてるようにしている。 | 例年は地区の様々な行事へ参加し交流を図っていたがコロナ禍の影響により全て中止となっている。事業所周辺を利用者と散歩する事で近隣住民・園児達との挨拶を交わし笑顔が見られている。あたり前に交流出来る日を望んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在はコロナウイルスのため、買物支援は出来ないが、去年までは毎日地域のスーパーで買物をして地域へ出かけ、認知症になっても私たちと同じように生活出来る事、認知症の方の支援方法をご理解いただけるよう発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在は運営推進会議は書面だけのやりとりとなっている。 | 会議は感染症の影響で2ヶ月毎に書面での開催とし、メンバーには活動や事故の状況報告等に「意見・要望があったら連絡お願いします」と文書を添えて郵送している。家族等からはコロナ禍での面会の問い合わせがあり、決め細かく説明し理解をもらっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 現在コロナウイルス感染予防のため、介護相談員の受け入れも行えていない。 | 運営推進会議の結果報告は窓口に出向いたり、事故報告など実情を伝え、分からない点のアドバイスをもらい解決に向けている。日頃から情報の共有を図り、良好な関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 月に一度、会議で身体拘束についての話し合いの場を設けており、日頃の支援の中で拘束や虐待に結びつくような例はないかを話し合っている。小さな疑問でも毎月話し合うことで互いの理解が深まっている。入居者の安全と尊厳を守る対応を、職員間で共有している。 | 身体拘束をしないケアについて、毎月全職員が参加して検討会・勉強会を開催し、事例報告を基に不適切なケアや虐待がないかなど話し合い、共通認識を持ち理解している。帰宅欲求などは否定せずに、付き添って外へ出かけたり、家族と電話する等不安なく過ごせるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 月に一度会議で虐待防止についての話し合いの場を設け、ケアの見つめ直しを行っている。 | | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度についてわからないことがあれば市へ問い合わせたり、調べたりと、理解を深める努力を行っている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の見学をお勧めし、契約時はできるだけ本人に同席して頂いている。事前に契約書をお渡しし、目を通せるようにしている。契約には十分に時間をとり、説明を行い、不安が残らないよう努めている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様の訴えはその場で傾聴し思いを受け止めるようにしている。ご家族様へも面会時に近況を報告し、話しやすい雰囲気を作っている。また生活の様子が変わるように毎月写真を使って個人個人にお便りを発行している。 | 居室で聞き取りをするなど、個別でのコミュニケーションづくりに心掛けている。家族等へは面会の方法や生活の様子を利用者直筆の手紙と写真を添えて、毎月報告し安心に繋げている。利用者・家族等からも感謝の声が多く聞かれている。 | | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のMTで職員の意見を聞き、反映している。また申し送り中や日常の中で困っている事がないか話せる雰囲気づくりをおこなっている。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回個人面談を行い、自己評価から達成目標を共有している。働きやすいよう、有休休暇の利用や子供看護手当として有休とは別に休みが取れる制度もある。 | | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月テーマを決め、職場内研修を行い、支援の取り組みの発表や緊急時の対応の仕方を職員が指導する立場となり、互いに教え合う場を設けている。皆で共有して支援に生かせるようにしている。 | コロナ禍により外部へは参加していないが、内部では年間計画に沿い、職員は輪番制でテーマを決め講師となり研修会を行い、互いに育ちあえる場を設けている。全職員が年間個人目標を設定して自己評価し、半年毎に上司と面談を行い意欲の向上を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 参加できる研修には参加時、情報発信を心掛けている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、ほとんどの研修に参加できなかった。 | 山形県グループホーム連絡協議会の管理者の勉強会へ参加している。コロナ禍での対応や悩みなどを情報交換し、実際に感染した場合のシミュレーションや食材の確保などを話し合い危機管理に繋げている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | なるべくご自宅の様子を見せて頂き、ご本人が大切にしてきたことを続けられる生活ができるよう段取りを行っている。事前に不安や要望を聞きだしておくことで早めに対応策を考えられるようにしている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約前にこれまでの人生をどう歩んでこられたか丁寧に取り組みをし、ご本人をより深く理解するよう努めている。重要事項説明書を一緒に読み上げ、疑問や質問はその都度お答えし、契約前に不安が解消できるようにしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 何が不安か、何が一番困っているかを聞き出し、ご本人のあるべき本来の姿に近づけるようにケアプランを作成し、ご家族に説明している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の声から、やりたいことを聞きだし本人の想いを大切にしている。生活のあらゆる場面での選択を自己決定できるよう常に本人の意思を確認している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には生活の様子をお伝えしている。月に1度は個人通信を作成し写真をたくさん載せたり本人からご家族へ手紙を書いてもらったり、家族の絆が途切れないようにしている。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで利用していた美容院、スーパー、かかりつけ医、行きつけの場所、お墓参り、等これまでのつながりが途切れないように事前に人間関係をお聞きし、継続して行けるようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 不自由さや不満など一人一人から聞き取り、利用者同士のコミュニケーションがとれるよう配慮し、支え合える仲間がいることを伝えている。これまでの生活歴や日頃の様子から気の合いそうな方は職員が間を取り持って良好な関係性を築き上げるよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 出会いに感謝し、退所後も訪問させていただいたり、仲の良かった入居者の方と一緒に顔を見に行かせていただいている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活歴やご家族から聞き取ったこと、普段の会話の中から大事にしている事や家族への思い、信仰、を汲み取っている。意向はその都度記録へ残し、職員が共有を図っている。意向はケアプランへ組み込み、本人本意かを考え、観察する力をつけている。 | 入居前に自宅様子の見学やこれまでの人生を辿り、利用者が大事にしていること・好きなこと等を聞き取り意向の把握に努めている。生け花や音楽が聴きたい・抹茶を点てたい・家族への気持ち・信仰心など一人ひとりの思いが叶えられるようプランに繋いでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 普段の会話の中から入ってくる情報をつなぎ合わせ、納得できる人生を歩んでいただけるお手伝いをしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 起床時毎日バイタル測定を行い数値の他、表情やしぐさを見ていつもと違う変化に気づけるようにコミュニケーションをとり観察している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のMTでは担当がプランに沿って支援出来ているか検証し見直しが必要となった時は本人と家族を交えてカンファレンスを行い、意見交換を行い話し合う場を設けている。大事にしてきた事を継続して行えるよう自立に向けた介護プランを作成し職員間で共有している。 | 大切にしてきたこと・好きなこと・できることを目標に、楽しんで穏やかな生活が出来るよう介護計画を作成している。毎月全職員で課題の分析や評価を行い、家族等へは6ヶ月毎にプランを説明し、身体的な変化があった場合は見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 出来る事、出来ない事、意欲、要望を見極めつつ、頑張っている様子、不安や悩んでいる様子を記入し、定期的に見直している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>コロナウイルスの影響により制限がある中でも、1時間以内のドライブや短時間の面会など、出来る事を積極的に取り組んでいる。</p> | | | |
| 29 | (11) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>コロナウイルス感染防止の為、体調の変化が見られない場合の定期受診は薬のみの処方をしていただいている。その時も体調報告のサマリーを準備し、受診の際は家族、主治医へ提出している。</p> | <p>入居前からのかかりつけ医を継続している方が多く、受診の際は情報提供書で状況を伝え結果は全職員・家族で共有している。また診療時間外の突発的な発熱などの対応、また受診移動時や院内感染リスクも考慮し訪問診療も選択肢として前向きに考えており、希望する方も増えている。</p> | | |
| 30 | | <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>隣接するデイサービス看護師が毎日体調管理に立ち寄り入居者の状態や受診の報告、体調の相談をし、情報を共有しており、専門的な立場からアドバイスももらっている。</p> | | | |
| 31 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>入院時には生活の様子、薬の情報、ADLの状態、既往歴などを記載した書類をお渡しし、情報を提供している。入院中も面会可能なら直接看護師へ状況を聞いたり、電話で相談員へ確認したり、できるだけ早く日常生活に復帰できるよう相談している。</p> | | | |
| 32 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>ホームでの看取りは原則行っていないことを契約時にご家族へ説明している。重度化した場合や終末期に近づいた場合、再度カンファレンスでお伝えし、次の段階に向けた情報提供を行っている。</p> | <p>介護認定が「要介護3」になった時をきっかけに家族等には次の段階へ向けた心づもりを促し、医師に相談し家族等・担当職員・管理者で方針を話し合いながらグループホームでの生活を続けるための工夫も重ねている。他施設利用などの意向には情報を提供し、その後も希望に合った生活ができるよう支えている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 33 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一年間のシミュレーション計画を立て、毎月急変時や感染症対策の模擬訓練を行っている。今年はコロナウイルス流行の為外部から講師を招くことが出来なかったが指導する職員、学ぶ職員とそれぞれ分担し、勉強会を行うことができた。 | | | |
| 34 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年間避難訓練計画を立て、地震、火災、水害を想定した訓練を入居者と共に行っている。又、備蓄の確保もしており定期的に点検している。 | 8項目の防災マニュアルに沿って火災や水害の訓練を行い、地震の訓練も予定している。実施要領や役割分担などわかりやすく説明して実施し、利用者と職員から反省点を挙げてもらい、感じた事を今後に向けて分析し有事の際の行動に反映させている。 | 災害対策に真摯に取り組んでいる事は理解できる。経験の浅い職員に対するサポートなど更なる取り組みに期待したい。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 35 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉遣いや態度に尊敬の念を込めて接し、必要以上に手を出さず、自分でできるように工夫いつまでも自立した生活が送れるよう支援している。 | 趣味や家事など人生で培った技や知恵を思い出してもらえよう、全職員が「こころみマネジメント」で検討し利用者一人ひとりが輝く場面づくりをしている。利用者の思いを最優先し、したいこと・食べたいものなどの希望には間を空けず対応している。 | | |
| 36 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思いが伝えやすいように担当者を中心に、信頼関係を築き、いつでも味方であることを伝え、自由に気持ちを表現できるような関係性を築いている。 | | | |
| 37 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎朝大まかな一日の流れを職員同士で話し合うが、会話の中で入居者からのやりたいことや行きたいところの要望があればそちらを優先し、柔軟に対応できる雰囲気づくりができています。 | | | |
| 38 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝の挨拶がてら身だしなみをチェックし、本人が気づかないところはお手伝いしている。入浴後も化粧水をつけたり、ひげ、爪の確認も行っている。外出時は口紅を勧めたりおしゃれな服で出かけられるようにしている。 | | | |
| 39 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食(献立作り～調理～片付け)を通して五感をフルに働かせる事ができるよう入居者中心に食事作りを行っている。調理では入居者同士が協力し、達成感を味わうことができるよう支援している。 | 毎食利用者全員で調理や後片付けをして、職員は見守りや気づかれぬように黒子に徹し、自立支援の大きな柱にしている。おせち料理・餅つき・梅干し・干し柿など伝統食づくりも大事な行事として利用者中心に行い、五感で季節を感じる機会となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事前に毎回レイボスティアーを提供し水分不足の方も必ず飲むように習慣にしている。10時と3時のお茶の時間では飲み物のバリエーションを増やし、個々の希望に沿ったものを提供している。水分摂取が難しい方はゼリー状したものを提供し十分な水分が取れるよう工夫している。 | | | |
| 41 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後と就寝前の口腔ケアを促し、個々の状況によって介助を行っている。義歯の方も毎日洗浄剤につけ込み、歯磨き、うがいをしていただいている。 | | | |
| 42 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄のパターンを記録し状況を把握する。パット等が必要と思われた時は職員間で話し合い、本当に今必要なかを見極め、いつまでも気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 利用者一人ひとりのサインを読み取り細やかに記録し、早めの声掛けで気持ち良い排泄に繋げている。排泄用品を利用する場合は必要性を検討しながら安易に頼らないよう心掛けている。介助は必要以上に付き添わず、恥ずかしさを感じさせないよう配慮している。 | | |
| 43 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一日の水分量を把握し、十分に水分摂取できるようにし、毎日軽体操や踏み台昇降運動を行っている。食事メニューも偏りがないようタンパク質や食物繊維等バランスよく献立に取り入れるようにしている。 | | | |
| 44 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 二日に1回入浴できるよう声をかけている。バラを浮かべたり仲の良い人同士入浴したり、工夫を凝らしている。着替えの準備、着脱もなるべく自分で行ってもらい、職員は出来ない所だけお手伝いするよう心がけている。 | 入浴の目安はあるが習慣に合わせて入りたいときに入ってもらい、同性介助の希望にも応じている。時折ゆずやバラ、温泉地の入浴剤など変わり風呂の日も設け香りを楽しみ、職員との会話も弾み本音が聞ける貴重な時間となっている。 | | |
| 45 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間は特に決めず、寝るまでの時間は個々の好きなように過ごしていただいている。寂しくて寝付けない方は一緒にこたつに入って安心してもらえるようにしている。巡視は2回行い、トイレの付き添い、歩行の介助等、必要に応じて行い、転倒しないよう見守りをしている。 | | | |
| 46 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 日付の記入、残薬の把握等薬については担当職員が中心に把握をしているが副作用、処方内容等は全職員が一目でわかるように綴っている。毎食時の薬の確認は出勤職員2名で行い、飲み忘れ、飲み間違いが起らないよう、緊張感を持って服薬支援にあたっている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 47 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑仕事、裁縫、歌、調理等、個々の得意な事を発揮できる場を設け役割として継続して行っているようケアプランにも組み込んでいる。 | | | |
| 48 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナウイルス感染防止の為、以前とは生活様式が変わってしまったが、近隣なら天気の良い日はお散歩に誘い季節の移り変わりを感じていただけるよう支援している。 | 感染対策をした上でドライブを楽しみ、季節を感じてもらっている。今まで大切に行ってきた毎日の食材買い出しもコロナ禍により中止せざるを得なくなり、頻繁に出かけられない分、敷地内の屋外活動や近隣の散歩などを多く取り入れ、日常的に外気に触れている。 | | |
| 49 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | コロナウイルス感染防止の為、買物に行けないが、近くの自販機に自分でお金を入れて好きな飲み物を選んでいただきお金を使う機会を作っている。 | | | |
| 50 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ホームへの電話は原則入居者の方に出ている。面会禁止の為ご家族の声が聴きたい時は電話をさせていただいている。また月に1回発行している個人の写真入り通信にも入居者の方が家族にあてた手紙を書いていただきつながりを持ち続けている。 | | | |
| 51 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部分の食堂や廊下は入居者全員で毎日掃除を行い、愛着を持って生活できるようにしている。日頃から整理整頓を心掛け食べこぼし等もすぐに拾いきれいな空間を心掛けている。夜間は行き届かない部分の清掃を分担して職員が行い、こまめな掃除を行っている。 | 1日のほとんどをリビングで過ごす方が多く、生活の中心の場となっている。食事の支度や後片付け・掃除洗濯そして一息つくお茶の時間や趣味活動、壁には書道教授をした方の作品などが飾られ発表の場ともなっている。足踏み昇降や体操で体を鍛え、いつも誰かがいる安心感とにぎやかに仲間と過ごす空間を大切にしている。 | | |
| 52 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ところどころに椅子を配置し、ふと一人になりたい時にくつろげるようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 53 | (20) | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>ホームへ越す際、使い慣れた家具や食器はそのまま使わせていただき愛着のあるものは持ち込んでいただいている。家族のアルバムや趣味の道具も引き続き楽しめるようお持ちいただいている。毎朝のごみの回収、週1回のリネン交換、室温、湿度の調整を図り快適に過ごしていただいている。</p> | <p>居室には使い慣れた物や家族写真・趣味の道具・仏壇など愛着のあるものを自由に持ち込んで自宅と違和感がないように設えている。時には気が合う同士が居室に訪問し合い親交を深めている。立ち上がりに不安のある方は和床にしたり、センサーマットを利用するなど安全にも配慮している。</p> | | |
| 54 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>一人で自室へ戻れるよう自室前に思い出の品を飾ったりトイレがわかりやすいように張り紙をしたり、一人でも行動できるようにしている。もし一人で場所がわからない様子が見られた時は、他者に知られないようにそっと案内をしている。</p> | / | / | |